

9 帰る家を失った人たち

※ ワークシート1を使用する際は、この点線以下を印刷してください。

■ ワークシート 1

何の数字か考えてみよう

ワーク 1

次の表は、厚生労働省が毎年発表している調査結果です。何を表した数字でしょうか。

() の人数

	男	女	性別不明	合計	差引増▲減
平成 19 年調査	16,828	616	1,120	18,564	—
平成 20 年調査	14,707	531	780	16,018	▲2,546 (▲13.7%)
平成 21 年調査	14,554	495	710	15,759	▲ 259 (▲ 1.6%)
平成 22 年調査	12,253	384	487	13,124	▲2,635 (▲16.7%)
平成 23 年調査	10,209	315	366	10,890	▲2,234 (▲17.0%)
平成 24 年調査	8,933	304	339	9,576	▲1,314 (▲12.1%)
平成 25 年調査	7,671	254	340	8,265	▲1,311 (▲13.7%)
平成 26 年調査	6,929	266	313	7,508	▲ 757 (▲ 9.2%)

調査方法：市町村による巡回での目視調査
厚生労働省ウェブサイト掲載の調査結果より

■ ワークシート 2

帰る家を失った人たち ～「ホームレス」の人権について考えよう～

ワーク2

- (1) 「ホームレス」の人たちについて知っていること、また、「ホームレス」という言葉からイメージすることを書きましょう。

- (2) なぜ「ホームレス」となってしまう人がいるのでしょうか。その原因として考えられることを書きましょう。

- (3) (1)、(2)の内容についてグループで意見を交換し、気づいたことや考えたことを書きましょう。

- (4) DVD「『ホームレス』と出会う子どもたち」を視聴して、「ホームレス」の人たちに対してできる支援には、どのようなことがあると思うか、書きましょう。

- (5) 「若者ホームレス」についての説明を聞いて、感じたことや考えたことを書きましょう。

ワーク 3

- (1) ワーク2を通して、あなたの中で「ホームレス」の人たちに対する考え方にこれまでと何か変化はありましたか。「変わった・変わらない」のどちらかに○を付け、その理由を書きましょう。

「ホームレス」の人たちに対する考え方が（ 変わった ・ 変わらない ）

《理由》

- (2) (1)についてのグループでの意見交換を通して、気づいたことや考えたことを書きましょう。

解説 9 帰る家を失った人たち

1 ねらい

ホームレスの人たちについて、「どのような人たちなのか、なぜそうになってしまうのか、現在はどのような状況になっているのか」など実態を知ること、ホームレスの問題は決して他人事ではないことや、身近で切実な問題であることを理解する。また、ホームレスの状態を自分の身に置きかえて考え、相手の気持ちに寄り添うことで人権意識を育むことがねらいである。

さらに、生徒たちと年齢の近い「若者ホームレス」も社会問題となりつつあることについても考えさせたい。

2 進め方

展開例（70分 3～4人のグループを作る）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1 (5分) ① ワークシート1について、何の数字か考える。 ② 解答を聞く。	○ ワークシート1に取り組む際は、ワークシートの題名がワーク1のヒントになってしまうので、点線以下を印刷し配付する。 ○ 表の数字は「ある人たちの数であること」であり「厚生労働省から発表されている数」であることなどを伝える。
2 ワーク2 (45分) ① ホームレスの人に対するイメージや、ホームレスになってしまう原因などについて、自分の考えを書く。(1)(2) ② (1)、(2)についてグループで話し合い、気づいたことや考えたことを書く。(3) ③ DVD『「ホームレス」と出会う子どもたち』を視聴する。 ④ できる支援について書く。(4) ⑤ 「若者ホームレス」についての説明を聞き、思うことを書く。(5)	○ ワークシート2を配付する。 ○ 率直な意見を書くよう促す。 ○ いくつかのグループの意見を全体で共有する。 ○ ホームレスの人たちの心情に沿った支援のあり方を考えるよう促す。 ○ 解説を参考に「若者ホームレス」について説明する。誰もがホームレスになってしまう可能

4 ワーク3 (20分)

- ① 自分の考えの変容について、理由を添えて書く。(1)
 - ② グループで(1)の内容について意見交換をする。(2)
 - ③ グループで話し合ったことをもとに感想を書く。(2)
 - ④ (2)について何人かが発表する。
- ワークシート1で見た数字に、実はネットカフェ難民の数は含まれていないこと、可視化されないホームレス状態の人は年々増加していると考えられていることなどを補足する。
 - 時間がない場合は、ワークシートを回収し、後日意見をまとめたものを配付するなど、フィードバックしてさらに生徒の考えを深める。

性があることにつなげ、身近なこととして考えるきっかけとしたい。

3 解説

ワーク1について

(答え) 全国のホームレス状態にある人の数

「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」第二条には、ホームレスとは「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」と定義されている。

このような「ホームレス」の人は、ワーク1の表に示されているように、近年は減少傾向にあるといえる。

しかしながら、次のような問題も指摘されている。

厚生労働省の2015年1月調査でのホームレス人口は6,541人と、前年に比べ967人減っています。07年1月調査では平均年齢57.5歳、5年以上野宿する人は59%と、高齢化と野宿生活の長期化が指摘されていました。ここでのホームレスとは「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として日常生活を営んでいる者」と、野宿生活者に限っています。ところが、翌08年のリーマンショックによる世界同時不況により、30万人にもおよぶ派遣労働者の解雇などにより、20~30代の若いホームレスが増えています。彼らの多くはネットカフェや24時間営業の飲食店などで夜を過ごしています。日本においても、国際的なホームレスの定義である、固定した住居をもたない人、また、それを失うおそれのある人という定義に従えば、その数はかなりの数になると考えられます。

ホームレス問題は社会の構造の問題であるとともに、社会の変化やその未来や、人間の生き方にかかわる根源的で、しかも誰の目にも見える問題なのです。

ビッグイシュー基金ウェブサイトより

つまり、法律で定義されているようなホームレスとはまた形態の違った「帰る家を持たない人」は、近年も増え続けているのである。路上生活を送るのではなく、いわゆる「ネットカフェ難民」のような住居がなく寝泊まりするためにネットカフェなどのような施設を利用し生活している人たちは「広義のホームレス」と表現される。

ホームレスの数に関して、ワーク1の表を見る限りは減少傾向にあるが、ここにはネットカフェや24時間営業の飲食店で夜を過ごし、帰る「家」を持たない人の数は含まれていない。

平成19年に厚生労働省が、ネットカフェなどのオールナイト利用者の数と利用理由を調査した結果、アンケートに回答した利用者の7.8%が「住居がなく寝泊まりするために利用」と答えた。この調査結果から、ネットカフェ難民などの住居喪失者の数が全国推定5,400名と発表された。

ワーク2について

(2) 次のような回答が考えられる。

- ・非正規雇用の労働者(派遣社員、フリーター等)が、さらに不況のあおりを受けて仕事を失い(派遣切り等)、家賃が払えなくなり賃貸住宅に住めなくなる。
- ・社宅や寮に住んでいた人が倒産や解雇によって職と家を同時に失う。
- ・家族との関係悪化により実家にも帰れず、ホームレス状態になる。
- ・社会生活に順応できなくなった、等。

DVD「『ホームレス』と出会う子どもたち」について

なぜ若者や子どもによる「ホームレス」襲撃が起きるのか? 大阪・釜ヶ崎にあるこどもの里が行う「子ども夜まわり」の活動を軸に、参加する子どもたちの変化、ホームレス生活を送る鈴木さん(64歳)の仕事や生活、その思いに迫る。さらに「ホームレス」襲撃問題をとおして、居場所(ホーム)なき子どもたちの弱者いじめの問題を問い直す。

DVD「『ホームレス』と出会う子どもたち」一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネット(平成21年)より

※ DVDは神奈川県教育委員会行政課にて、県立学校に貸し出しをしています。貸し出し方法等については、行政課人権教育グループにお問い合わせください。

(5) 自分自身や身近な人がホームレスになってしまう可能性について、「考えたことがない」と答える生徒が大半であると考えられる。しかし、ホームレス状態というのは決して他人事ではなく、収入も帰る場所も失った若者ホームレスの増加が社会問題となっていることを通して、誰もがそうなる可能性があることについて考えさせたい。

若者ホームレスには、路上での生活を送る者は少なく、ほとんどがネットカフェや24時間営業の飲食店等を転々としながら夜を過ごす。自分がホームレス状態にあるということ他人に知られたくないため、ホームレスの人たちに食事を提供する炊き出しには並んだりしない。また、得られた収入は身だしなみを整えるために使うなどするため、若者ホームレスは可視化されにくく、なかなか支援につながらないのが現状である。

人がホームレス状態に陥る原因は様々であり、特別な誰かが「ホームレス」になるというわけではないということの理解を深めさせたい。

ワーク3について

ワーク2やDVDの視聴を通して、自分の考えの変化について振り返る。グループでの意見交換なども通して、「ホームレス」や人権に対する理解を深める機会とする。

まとめ

少年・少女によるホームレス襲撃事件が社会問題として取り上げられるようになって久しく、未だに事件が後を絶たない。このような少年・少女たちがホームレスを襲うのはなぜか。それは、「誰もがホームレスになるおそれがあり、ホームレス状態になっても守られるべき人権がある」という認識の欠如が大きな要因の一つであると考えられる。

「ホームレス状態」は決して他人事ではなく、私たちが生きていく上で常に自分の問題として存在しているものである。「自分がホームレスになってしまった時、人間としての尊厳を無視され、襲撃されたり差別されたりしたらどうか」など、ホームレスということをも身近なものとして捉え、自分自身に置き換えて考えるように、授業の中で促したい。

家があってもなくても、皆がそれぞれ同じようにたった一つの命を持って生まれてきたかけがえのない一人である。そのことを認識することが、ホームレスの人権を守る大切な第一歩となるのではないだろうか。

高校生がホームレスの人たちにできる支援は限られているかもしれないが、ホームレスの人たちの人権を考えることを通して、「相手のことを自分のこととして考え、相手の気持ちに寄り添って思いやること」が相手の人権を尊重することには欠かせないことだということを、改めて生徒自身に気づかせたい。

〈引用文献〉

ビッグイシュー基金ウェブサイト

〈参考資料〉

「ホームレスの実態に関する全国調査（概数調査）」 厚生労働省

「広義のホームレス実態調査について」 厚生労働省

DVD『「ホームレス」と出会う子どもたち』 一般社団法人ホームレス問題の授業づくり全国ネット（平成21年）